

南シナ海 2021年 不安定な状況

East Asia Forum

31 December 2021

Choppy conditions in the South China Sea

<https://www.eastasiaforum.org/2021/12/31/choppy-conditions-in-the-south-china-sea/>

Collin Koh

南シナ海の不安定な状況

概況

COVID-19 危機によって、南シナ海行動規範（COC）の討議はストップしている。フィリピンのロペシン外相は「ASEAN と中国の交渉はまったく進まなかった」と述べた。

ASEAN 諸国と中国は、COC をめぐる深刻な違いを克服するために、厳しい仕事をこなしている。そこには交渉の対象範囲となる地域の特定期、非当事国の役割についての議論が含まれる。

常態化した中国の攻勢

中国の実力行使と強制は、2021 年には常態化した。3 月には、ウィットソン環礁で中国海上民兵の舟艇群出現し、東南アジアを震撼させた。

なぜならこの環礁の領有を主張するフィリピンは、ドゥテルテ大統領が政権を握って以来、ワシントンと距離を置き、北京とのより緊密な関係を模索していたからだ。

それは中国で新沿岸警備隊法が導入された直後に実行された。この法律は、北京の主張する海洋主権に違反したものに対しては、軍事力使用を可能にするものだった。

ついで9月には海上交通安全法が改正され施行された。中国は、インドネシアやマレーシアなど東南アジア諸国に対する海上強制を続けた。

北京は、北ナツナ海のインドネシアの排他的経済水域（EEZ）で、石油掘削への干渉を開始した。そしてジャカルタに掘削の中止を要求した。

それは、南シナ海における伝統的な漁業権を尊重するという中国の約束からすれば、明らかなエスカレーションである。

このような中国側のエスカレーションは、いずれも、中国とASEAN加盟国が地域の平和と安定を維持するための外交努力を続けている間に起こっている。

それは中国人民軍に対する政府のガバナンスの存在を疑わせるものがある。

アセアン側の外交的反撃

それでもASEAN加盟国は未だ、北京が南シナ海で「あら馬乗り」をするような真似を許してはいない。

地域外の勢力からの南シナ海にたいする関心も高まっている。昨年、東南アジア諸国との覚書に基づいて、日本とニュージーランドは、国連事務総長へ独自に訴状を提出した。そこでは中国の海上での武力行使に対する懸念が表明されている。

域外国による軍事活動も 2021 年に増加した。フランス海軍の潜水艦エムロードは、2月のインド太平洋ツアーの一環として、南シナ海を横断した。英国海軍空母打撃群は、7月に米国の F-35B 統合打撃戦闘機を南シナ海に配備した。

日本の駆逐艦加賀と米国のカール・ヴィンソン空母を中心とする打撃群も、10月にこの地域で訓練を実施した。11月にはこの艦隊が初めての対潜水艦訓練を実施した。

アセアンが中国に配慮する事情

ASEAN 諸国が COVID-19 に焦点を当てている限り、これらの国は中国とのより強い関係を模索する可能性が高い。パンデミック後の回復をスタートさせるためには、中国の軍事的違反行為に耐え続けるしかない。

その間、東南アジア諸国政府は、北京に対する否定的表現を口に出さず、飲み込むほかないだろう。南シナ海の状態は膠着状態のまま経過しており、現在の状況は打開できそうにない。

22 年 アセアン強硬化の可能性

2022 年のフィリピンの選挙は非常に重要なものになる可能性がある。ドゥテルテ大統領はスカボロー諸島に関して融和的な態度をとってきた。そのために不安定な停戦状態が続いてきた。

もし親米・反中の候補が当選し、フィリピンの姿勢が強硬化すれば、北京はスカボロー諸島に対して先制行動をとるかもしれない。

南シナ海にコミットする域外国の存在は、少なくとも一時的なものでなく一定の期間続くものと見られている。なぜなら、いくつかの ASEAN 諸国は、南シ

南海の平和と安定を維持するのにそれらの国が役立つと考えているからだ。それはドゥテルテが、米国の駐留協定を終了するという決定を取り消した主な理由でもある。

9月のAUKUS防衛協定の潜在的リスクについて、いくつかの国から意見が上がったが、多くの国はオーストラリア、英国、米国との経済、安全保障での協力を引き続き強化している。

今後COC交渉が進展するかどうかは不確実だ。そのための新たな推進力は見当たらない。

南シナ海行動規範（COC）早期実現の可能性は薄い

カンボジアは、ASEAN議長国の下で2022年に交渉を終わらせることを熱望しているようだ。しかし、すべてのASEAN加盟国が同じ熱意を共有しているわけではない。

南シナ海をめぐる北京とASEAN諸国間の長引く不信の蓄積は、中国の継続的な動きによって煽られてきた。

ASEANと中国は、21年には対面協議を通じてCOCプロセスを再活性化する可能性がある。しかし、それが大きな進展を見せるためには、東南アジア諸国が新型コロナから回復できるかどうかにかかっている。

それまでは、多かれ少なかれ、今までと同じことの繰返しになるだろう。我々はあらゆる形の乱流に備える必要がある。